

第 17 回教育課程編成委員会 議事録

開催時：令和 3 年 8 月 25 日（水） 14：00～15：00

場所：下関福祉専門学校 3F

出席者：富田 陽治（一般社団法人 山口県介護福祉士会 下関ブロック長）
花貫 一博（社会福祉法人 下関市社会福祉協議会 在宅福祉課長）
河田 洋治（社会福祉法人 菊水会 参事）
関谷 豊（下関福祉専門学校 校長）
田中 満由美（下関福祉専門学校 教務部長）
藤岡 恵子（下関福祉専門学校 教務主任）
長本 幸子（下関福祉専門学校 専任教員）
関谷 紗也佳（下関福祉専門学校 専任教務）（敬称略）

- 議題 1 今年度の状況報告
- 2 卒業者及び在学者状況報告
 - 3 今年度の教育目標
 - 4 今年度の「福祉と文化」特別授業
 - 5 各委員からの意見要望

1. 今年度の状況報告

- ・今年度留学生については、ベトナムとミャンマーからの受け入れをしている。昨年度に引き続き留学生に関しては、各法人が受入している。
- ・本来であれば、次年度もベトナムからの留学生の受け入れの予定であったが、コロナ禍・自然災害の影響で日本への入国が制限されている状況であるため難しいと思われる。
- ・ミャンマーでクーデターがあり、家族と連絡が取れていない留学生がいるが、それぞれ頑張っている。さらに次年度もミャンマーからの受入を予定していたが困難な状況である。
- ・卒業後、山口県内の社会福祉施設や事業所等で、介護福祉士として介護等の業務を 5 年継続従事すれば奨学金返還が免除される山口県よりの奨学金制度を、一般生や留学生はほとんど利用している。またハローワークからの訓練生の受入もしている。

2. 卒業者及び在学者状況報告

卒業者及び在学状況を報告する

3. 今年度の教育目標

(1) 介護に必要なコミュニケーション能力を養い、生活ニーズに対応できる能力を培うことができる。

1 学年：対人援助に必要な人間の関係性を理解し、コミュニケーションの基礎的な知識を習得する。

クラスの年齢層の中でコミュニケーションを意識的に図ることができる。

2 学年：介護実習において、積極的にコミュニケーションをとり担当ケースとその家族に対して信頼

関係の構築を行い、集めた情報を記録に活かし、ケースのニーズを明確にすることができる。

(2) 介護過程の意義、目的を理解し個々のニーズに沿った介護過程の展開ができる。

1 学年：介護過程の意義、目的を理解し、介護過程に必要な思考過程を理解することができる。

2 学年：多職種協働によるチームケアの一員としての介護福祉士の役割を理解し、専門職として介護過

程の展開ができる。

(3) 福祉専門職としての職業倫理を理解し、介護福祉士の役割を認識することができる。

1 学年：福祉専門職としての職業倫理を理解し、介護福祉士の役割を認識することができる。

2 学年：介護福祉サービスの特性を理解し、権利擁護の視点から利用者の自立支援を行い個別ケアを実

施することができる。

委員からの質問・意見

Q.介護福祉サービスの特性とは何か

A.形として残らない・画一化でない・個々のとらえ方が多様化している等介護福祉サービスとしての特性がある。

4. 今年度の「福祉と文化」特別授業

委員からの意見

- ・今の若い子は、メンタルが弱いのでストレスマネジメントは続けた方が良い
- ・ストレスに耐えきれなくなってきた。先輩に相談などができずにストレスが溜まってきているので、ストレスマネジメントとコミュニケーションを組み合わせるなどしてはどうか。
- ・介護は人間関係が原因で辞めることが多いため、ストレスマネジメントは続けた方が良い
- ・責任を持つのを嫌がり、何か言われると逃げたり、へこんだりする。
介護は経験が大事であるから、経験を積むことが大切であるが積む前に逃げ出してしまう、我慢ができない。人に対して、全体的に弱い。
- ・SNS への取り扱いをやってはどうか？仕事の事を発信してはいけない、利用者の写真をとったらいけないことなど、自分がトラブルに巻き込まれない様に職業倫理に入れてはどうか。
- ・新人だけではなく、LINE である人の陰口を送って、本来ばれないはずだったが、なぜかそれが陰口を言っている本人にばれて、もめたなどが実際にあった。
- ・企画を求められたりすることがあるので、学生の企画した特別授業も考えてみてはどうか。

・ビジネスマナーを取り入れてはどうか。

5 各委員からの意見要望

・介護福祉士会として何か学校に役立つことがあれば協力する

・外部からの意見は刺激があり大事なのでこれからも受け入れていくと良い

・若い子は、コミュニケーション不足を感じるので、実習で利用者や職員と会話をし、コミュニケーション技術を身に付けてほしい。また、外部の講師による講義が有効な時がある。

・最近では、記録や介護計画書をパソコンで作成しているのでパソコンの知識は必要である。

・学校で学んだことと、現場では違いが大きく、ギャップを減らせるように努力する。

Q：コロナ禍もあるので、実習の新しいやり方などを検討されているだろうか。

A：過去に2段階実習で校内演習をしたが、実践が伴わないため3段階実習で介護過程の展開を行う際学生にかなり戸惑いがあった。そのためなるべく施設での実習をお願いしたい。また、学校での感染対策として、実習直前のPCR検査及び開始2週間前からの行動記録の記入を学生に課している。

Q：実習中は、オンラインでできることはオンラインで実施しても問題ないか

A：実習の目的を理解していただいた上で、各施設の対応でおまかせする。

次回委員会開催日の日程について

令和4年3月開催予定